



2011 EHIME JIZAKE FESTIVAL
愛媛の酒を楽しむ会

「地酒+郷土の味」で愛媛の食文化全開!



愛媛県酒造組合(中城英敏理事長)が主催する首都圏向け試飲イベント「愛媛の酒を楽しむ会 2011」(第3回)が、8月25日の夕べ、東京新宿の京王プラザホテルで開催され、300名を超える日本酒ファンが、愛媛の地酒の数々と、瀬戸内の味覚を詰めこんだビュッフェディナーを楽しみました(参加費 6000円)。

● 愛媛地酒のおいしさを東京に。21の蔵元が参加

「愛媛の酒を楽しむ会」は、東京の日本酒ファンに愛媛地酒のおいしさを知ってもらおうと、一昨年からスタートした本格的な試飲会イベント。3回目となる今回は、初参加の3社を含む21の蔵元が自慢の銘柄や県の統一ブランド酒「しずく媛」など、およそ100銘柄の日本酒を出品。ジャコ天や鯛めしなど、地元から取り寄せた食材をふんだんに使った料理と合わせて、愛媛の食文化の醍醐味を提供しました。



また、会場の一画には、「東日本大震災の被災者に少しでも力になりたい」という思いから、義援金の募金箱も設置され、多くの来場者が呼びかけに応じて募金に協力する姿が見られました。



義援金の呼びかけも



蔵元との日本酒談義も楽しみのひとつ

愛媛の酒で乾杯！(上は中城理事長(左)と山川副理事長)

● 蔵元の間味が加わって酒の味もアップ

会の初めには、中城理事長が「お酒の味は、人間味が加わるともっとおいしくなる。きょうは蔵元の人とたくさんお話をし、各蔵の間味を感じてください。そして、愛媛の酒の特徴、おいしさを確認して、回りの人にその情報を教えてあげてください」と挨拶したのに続いて、勢ぞろいした21の蔵元が、ひと言ずつ自己紹介の弁。各蔵元の間味が伝わったところで、山川副理事長の発声に合わせて、元気よく「愛媛地酒で乾杯」。



21 蔵勢ぞろい

● お楽しみ抽選会で大盛り上がり

来場者は、テーブルを囲んで仲間との会話を楽しんだり、各蔵のブースを回って蔵元と日本酒談義を交わしたりして、豊かな瀬戸内海の味覚と愛媛地酒の多彩な味わいを、心行くまで堪能。

途中には、各蔵の日本酒や、伊予名物のタルトなどが当るお楽しみ抽選会もあって、当選者が発表されるたびに会場は、叫び声や拍手が響きわたって、ひととき大きな盛り上がりを見せていました。



当たった！
当たった！



満足しました

会社の同僚と参加したある女性参加者は、「愛媛といえば温泉と魚と日本酒。イメージどおりのゼイタクなイベントですっかりいい気分になりました。抽選には当らなかつたけど充分満足」と感想を語ってくれました。

なお、今回は「愛媛の酒を楽しむ会 2011」に先立って、流通・料飲業界を対象とした商談会も開催され、50社以上の小売、飲食店関係者が参加して熱心な商談風景を繰り広げました。